

松江市域の横穴墓

—意宇型横穴墓を中心として—

西尾克己・稲田 信

はじめに

古墳時代の墳墓には、墳丘をもつ古墳がよく知られているが、出雲地域では山腹に穿たれた横穴墓も多く営まれている。現在、約500群、1,500穴以上の横穴墓が確認され、その内の6割近くが出雲東部の安来市と松江市に存在している。多いものでは数十穴で構成されるものまであり、各横穴墓には複数の人が埋葬されており、家族墓といわれている。

この横穴墓は5世紀代の古墳時代中期に北部九州の豊後で出現し⁽¹⁾、その後、6世紀に入り、横穴式石室⁽²⁾と共に、新たな墓制として本州にも波及し、列島各地で採用された。

横穴墓は、もともと古墳の一形態であり、導入時には古墳同様に円形や方形の墳丘を有していた。しかし、6世紀後半以降は、墳丘をもつものは殆ど無くなり、山の斜面に群集して掘られるようになる。内部の構造としては、遺骸を置く玄室は2m四方ほどの広さで、天井は低く、丸く加工されている。その入口である羨道部は短く、さらに、幅の狭く細長い墓道が付く。

出雲地域での横穴墓の出現は6世紀中頃とされ、須恵器編年では出雲編年3期⁽³⁾にあたる。その後、7世紀前半にかけて多く造られていった。当初の横穴墓の構造は前記したとおりであるが、暫くすると墳丘をもたないものが多くなる。玄室などの内部構造にも変化が生じ、中には出雲東部の石棺式石室の影響を受け、玄室の天井が家形に加工され、玄門が板石で閉塞される。また、墓道部分の幅が広くなり、葬送儀式を行う空間ができる。このような構造の横穴墓を「意宇型横穴墓」と呼んでいるが、その分布は松江市域と安来市の平野部に集中している⁽⁴⁾。

松江市域では、現在のところ200箇所あまりの横穴墓群が確認されており、山陰地域でも多く造られた場所の一つでもある。横穴墓の発掘調査も多く行われ、膨大な資料が蓄積され、研究も確実に進められている。とりわけ、横穴式石室の調査・研究と対応して、横穴墓の分布、形態、副葬品の状況等がこれまでも検討されている。

本稿は、『松江市史』「考古資料」で集成した「石棺式石室と意宇型横穴墓」⁽⁵⁾を補足する意味で、横穴墓の分布と意宇型横穴墓の出現と築造を検討し、石棺式石室との関わりを基に松江市域に所在する横穴墓の様相の一端を明らかにするものである。

なお、横穴墓の築造時期は、断りのないかぎり出土した須恵器の編年⁽⁶⁾に基づき「出雲編年」として説明を行っている。また、本稿で記述する松江市域内に所在する横穴墓、石棺式石室のうち、主なものについては『松江市史』「考古資料」で個別に紹介しているので、参考文献を含めてご確認願いたい。

1. 研究史と問題の所在

(1) 研究史

出雲部における横穴墓の研究は戦後から始まるが⁽⁷⁾、築造時期や内部構造についての議論⁽⁸⁾は、発掘調査成果が増えた80年代以降である。また、導入期の横穴墓には、尾根上に墳丘があることが指摘され、墳丘での葬送祭祀も行われたことが知られた⁽⁹⁾。

内部構造については、導入期の玄室は丸天井であり、羨道は細長い墓道をもつ。さらに、平面構造が、

羨道の前に短い空間部が付き、羨道部が二重構造をとるものが現われる。このことが最初に指摘されたのは、松江市山代町の狐谷横穴墓発掘調査報告書においてであった。また、玄室が家形に変化し、墓道が幅広くなったことを石棺式石室の形態との関わりに言及されたのが、安来市黒井田町の高広横穴墓群発掘調査である。その報告書において、玄室は小形丸天井から疑似四注式に変わり、墓道は狭長のものから断面U字形の大形の通路になると指摘した⁽¹⁰⁾。

さらに、石棺式石室と横穴墓との関連を出雲東部で追求していた出雲考古学研究会の「石棺式石室の研究」⁽¹¹⁾において、松江市の山代方墳や永久宅後古墳の石室と岩盤に穿たれた安部谷横穴墓群の平面形態や玄門や羨道の構造が極めて類似することから、横穴墓の中に石棺式石室の要素が、強く影響していることが詳細に論証された。また、出雲東部の横穴墓の構造に、肥後(熊本県)の横穴墓のものが入っていることも指摘されている⁽¹²⁾。

その後、道路建設や治水関連事業により出雲地域の各地で大規模に横穴墓の発掘調査が行われ、資料が大量に蓄積された。中でも、安来道路建設事業により、安来平野の東側で岩屋口北横穴墓や臼コクリ横穴墓が、松江市東出雲町で、島田池横穴墓や渋山池横穴墓が調査され、出雲東部の導入期から終末にかけての横穴墓の実態が具体的に分かってきた⁽¹³⁾。

一方、出雲地域全域を対象に横穴墓の悉皆調査も実施された。1993年に宍道町の横穴墓が網羅的に報告され⁽¹⁴⁾、1997年には出雲全域の横穴墓の図面の集成が行われた⁽¹⁵⁾。直近では、松江市域の横穴墓のうち、発掘調査が行われたものを『松江市史』で概略を紹介した⁽¹⁶⁾。

(2) 問題の所在

松江市域は島根県全域を見渡しても貴重な遺跡が集中する地域で、横穴墓も多く造られた地域の一つである。古くからの研究・報告、また、発掘調査も多く行われ、膨大な資料が蓄積され、横穴墓の研究も確実に進められている。とりわけ、横穴式石室の調査・研究と対応して、横穴墓の分布、形態、副葬品の状況等が詳細に検討されている。しかし、松江市域の横穴墓全体について網羅的に捉えられたことは少ない。本稿では、『松江市史』「考古資料」で集成した「石棺式石室と意宇型横穴墓」⁽¹⁷⁾を補足し、意宇型横穴墓を中心に松江市域の横穴墓の様相の一端を明らかにする。

2. 松江市域における横穴墓の分布

松江市域は、概ね律令時代の島根郡、^{あいか}秋鹿郡、意宇郡の一部(中・西部)からなる。横穴墓の分布をみると、朝酌川上流域、講武盆地周辺、大橋川北岸域、佐陀川河口(宍道湖側)付近、意宇川流域(河口付近、意宇平野付近、中流域、須賀川付近)、馬橋川流域、忌部川流域、玉湯川流域、佐々布川・同道川流域あたりに集中して分布することが分かる(松江市域の横穴墓一覧、松江市域の石棺式石室、横穴墓分布図参照)。ここでは、横穴墓が集中して分布する地域を、そこに所在する石棺式石室、意宇型横穴墓の分布と併せて概観する。

① 朝酌川上流域の様相

朝酌川上流域はいくつもの川筋が朝酌川の支流として枝分かれし、持田、川津周辺の平野地帯を形成している。横穴墓が密集する地域のほぼ中心に5基の石棺式石室からなる太田古墳群が形成され、太田古墳群の南東側には同じく石棺式石室の西宗寺古墳、葉佐間古墳、川原古墳が、北には古妙見古墳が所在する。また、太田古墳群の近くには6世紀中頃で2基の横穴式石室をもつ薄井原古墳も知られる。律令時代の島根郡域では最も石棺式石室が密集する地帯で、横穴墓も密集して造られている。発掘調査事例は少ないが、横穴墓の形態を見る限り、意宇型横穴墓の分布は今のところ無く、やや離れて菅田横穴墓群中に意宇型横穴墓を見ることができる。

② 講武盆地周辺の様相

講武盆地では講武川が形成する小平野が形成されており、弥生時代前期の堀部第1遺跡が存在するように、日本海を媒介とした集団の移住もあった場所である。講武川の北側には、石棺式石室をもつ講武岩屋古墳、子持壺が出土した講武向山古墳が所在する。横穴墓は講武川や佐陀川周辺の丘陵斜面などに造られ、比較的狭い範囲に密集して造られたことが分かる。横穴墓の形態を見る限り、意宇型横穴墓の分布は今のところ無い。

③ 大橋川北岸域の様相

古墳時代中期から大型古墳が造り続けられた大橋川流域の北岸域にあたる。古墳時代後期には石棺式石室をもつ朝酌岩屋古墳、旧朝酌小学校校庭古墳、子持壺が出土した魚見塚古墳（全長62mの前方後円墳）、終末期の古墳である廻原1号墳などが所在する。横穴墓の数はそれほど多く確認はされていないが、遅倉横穴墓群中に意宇型横穴墓を見ることができる。

④ 佐陀川河口（宍道湖側）付近の様相

佐陀川河口は、古代には「佐太水海」^{さだのみずうみ}が広がっていた地帯で、遺跡の分布も旧地形に影響を受けている。河口の左岸（東側）では、浜佐田、比津、法吉周辺で横穴墓が集中して分布する。意宇型横穴墓は小池谷横穴墓群で確認することができる。河口右岸（西側）には、整美な横穴墓をもつ北小原横穴墓群、寺津横穴墓群があり、いずれも意宇型横穴墓が確認されている。

⑤ 意宇川流域（河口付近、意宇平野付近、中流域、須賀川付近）の様相

意宇川流域は、出雲東部でも最も遺跡が分布する地域である。流域が広く、いくつかの区域で小平野が形成され、分布の集中が見られる。

意宇川河口周辺は大橋川南岸域でもあり、古墳時代前期の廻田古墳を始め、古墳時代中期、後期の大型古墳が連続的に築造されている。意宇川右岸の丘陵地帯に横穴墓が集中しており、意宇型横穴墓は中竹矢横穴墓群、社日横穴墓群、的場横穴墓群などで知られる。

意宇平野付近は律令時代の国府、国分寺が置かれた古代出雲の政治的中心地で、渡来人の移住も想定される出雲国府跡下層遺跡もある。周辺では石棺式石室をもつ団原古墳、岩屋後古墳、古天神古墳などがあり、意宇型横穴墓は、意宇平野南側丘陵では岩盤に掘られた安部谷横穴墓群、湯田横穴墓群、西側では同じく岩盤に掘られた小谷横穴墓群などが知られる。

意宇川中流域は意宇川に東岩坂川、桑並川が合流する地点で、小平野が形成されている。永久宅後古墳と類似する石棺式石室をもつ雨乞山古墳や、池の尻古墳が所在する。横穴墓は流域ごとに密集しており、現在のところ意宇型横穴墓は四歩市横穴墓群、大日堂横穴墓群などで知られる。

須賀川付近では谷平野がいくつも形成されている。石棺式石室をもつ栗坪古墳が所在し、周辺には横穴墓群も多数存在する。現在のところ、意宇型横穴墓は内馬池横穴墓群（岩盤に掘られている）、古城山横穴墓群、島田横穴墓群、高井横穴墓群、島田池横穴墓群、渋山池横穴墓群などで知られている。

⑥ 馬橋川流域の様相

古墳時代後期に大庭鶏塚古墳、山代二子塚古墳、山代方墳、永久宅後古墳など出雲東部地域の最高首長墓群である山代・大庭古墳群が形成された地域である。石棺式石室は向山1号墳、山代方墳、永久宅後古墳で確認されており、周辺には意宇型横穴墓を多数含む狐谷横穴墓群、十王免横穴墓群など大規模な横穴墓群が所在する。

⑦ 忌部川流域の様相

忌部川流域に形成された小平野周辺に横穴墓群が散在する。今のところ石棺式石室、意宇型横穴墓は確認されていない。

⑧ 玉湯川流域の様相

玉湯川と隣接する林地域に小平野が広がる。石棺式石室をもつ林8号墳や、やや離れて鏡北廻古墳があり、意宇型横穴墓は岩盤に掘られた岩屋寺跡横穴墓群、岩屋寺跡後横穴墓群などで知られる。

⑨ 佐々布川、同道川流域の様相

佐々布川と隣接する同道川流域に小平野が広がる。石棺式石室は伊賀見1号墳、下の空古墳、宍道要害山古墳（横穴墓のように岩盤に掘られている）が所在し、意宇型横穴墓としては山の神谷横穴墓群、後谷横穴墓群、西来待横穴墓群などが知られる。なお、佐々布川と同道川周辺（奈良時代の宍道郷^{ししちのさと}）は岩盤に掘られた横穴墓が密集しており、小佐々布横穴墓群、観音寺横穴墓、横町横穴墓群、随音寺横穴墓群、岩穴口横穴墓、山の神谷横穴墓群、後谷横穴墓、西来待横穴墓群などが知られる。石室などの石材となった来待石が産出される所でもあり、他地域と比較しても特異な様相を示している。

以上、横穴墓の分布について、そこに所在する石棺式石室、意宇型横穴墓分布と併せて概観した。意宇型横穴墓は、現在確認されている中では、意宇川流域、馬橋川流域及びその周辺で最も多く造られており、この地域は意宇郡の中核部として石棺式石室も多く存在する。また、意宇型横穴墓を含む横穴墓群を見ると、山代・大庭古墳群周辺では狐谷横穴墓群、十王免横穴墓群のように、意宇型横穴墓を多数含む大規模な横穴墓群が存在する。大橋川の北側（律令時代の島根郡、秋鹿郡）は、大橋川南（律令時代の意宇郡の一部）と比べると石棺式石室や横穴墓の分布が少なく、意宇型横穴墓も限られた地域に点在している。

なお、松江市域内で岩盤に掘られた横穴墓を見ると、意宇川周辺（意宇平野付近、須賀川付近）で小谷、安部谷、湯田、内馬池、玉湯川周辺で岩屋寺跡、岩屋寺跡後、佐々布川・同道川周辺で小佐々布、観音寺、横町、随音寺、岩穴口、山の神谷、後谷、西来待の各横穴墓（群）が知られる。岩盤に横穴墓を掘り込む技術は、石室や石棺に利用する石材の採石・加工とも関わり、土に掘る横穴墓に比べ格段の技術と労力を要すると考えられる⁽¹⁸⁾。岩盤に掘られた横穴墓が密集する地域では、石材の供出など、何らかの背景を検討する必要がある。

3. 意宇型横穴墓の出現と築造（石棺式石室の形態変化と意宇型横穴墓の築造）

(1) 石棺式石室と意宇型横穴墓の出現

前述したように、石棺式石室は九州の横口式家形石棺に祖形が求められる。その影響を受けた松江市大草町の古天神古墳が6世紀中葉に出現し、ほどなく石棺式石室の要素を多くもつ松江市宍道町の伊賀見1号墳も構築される。この2基の古墳が築かれた後には、古天神古墳がある意宇川下流域の大首長墓の山代方墳にも石棺式石室が採用され、これを契機に、出雲東部各地の首長墓にも導入される。

一方、既に家族墓として浸透している横穴墓にも、この時期、内部構造に変化が生じた。意宇川下流域の場合、導入期の中竹矢1号墓や的場1号墓は、玄室がドーム形で、細長い墓道をもつが、その後、玄室でテント型が現れ、また、墓道の幅が広がる。さらに、前庭部が墓前祭祀の場となる。この変化は安来平野周辺の横穴墓にもみられ、石棺式石室の影響と考えられている⁽¹⁹⁾。

以下、須恵器から出雲4期と5期以降の2時期に分けて、詳しく述べてみたい。

(2) 松江市域の意宇型横穴墓築造

① 出雲4期

この時期の横穴墓としては、山代方墳が存在する茶臼山北麓（山代町）の狐谷横穴墓とその谷奥（矢田町）の十王免横穴墓群や勝負谷横穴墓群が知られる。狐谷10号穴、十王免横穴墓群27号穴、勝負1号

穴は導入期のものである。それに続く十王免30号穴では、玄室はテント型で、前庭部もできており、形態としては意宇型横穴墓になっている。出土している須恵器は出雲4期にあたる。一方、狐谷横穴墓ではこの時期の意宇型横穴墓は確認されていない。意宇川下流域の東側丘陵にある渋山池横穴墓群では、1号穴、6号穴で意宇型横穴墓は確認できるが、島田池横穴墓群では存在しない。よって、松江市域では、安来平野の東縁丘陵に比べて、意宇型横穴墓の数は割合としては少ないといえる。

安来平野東縁丘陵では、安来道路建設事業に伴って、飯梨川東側の白コクリ横穴墓群、岩屋口南横穴墓群など多くの意宇型横穴墓が確認されている。玄室の形態はテント型である。また、副葬品には大刀や馬具をもち、通常の横穴墓被葬者に比べ有力者が葬られていると推定される²⁰⁾。

② 出雲5期以降

この時期になると、玄室にはテント型家形と整正家形が現れる。特に整正家形についてみると、意宇川下流域の安部谷横穴墓群が典型的な横穴墓である。凝灰岩の山肌に穿たれ、玄室、羨道部を見る限り、石棺式石室の内部と極めて類似している。これは、石室作成に関わった工人が関与したことを窺わせるものである。また、出土品中に円筒埴輪や子持壺が存在することも注目される。

この時期の意宇型横穴墓は、意宇川下流域では他にも多く存在する。前記した横穴墓以外に、大庭町の小倉見谷横穴墓群、八幡町の社日横穴墓群、的場横穴墓群、浜乃木町の奥山横穴墓群、東出雲町の島田池横穴墓群、古城山横穴墓群が挙げられる。しかし、意宇川上・中流域の八雲町や忌部川流域ではほとんど確認されていない。また、宍道湖南岸の玉湯町や宍道町では、砂岩の岩盤に穿たれた横穴墓群に意宇型横穴墓が存在する。これも意宇川下流域と同様に、石工集団の関与が窺える。一方、宍道湖の北側や島根半島部をみると、横穴墓自体の分布が偏る。朝酌川流域の川津・持田地区や佐太川流域に限られ、さらに、意宇型横穴墓は西浜佐陀町の北小原1号穴や寺津横穴墓群、菅田町の菅田横穴墓群等しか認められなく、その分布は極めて少数である。

なお、意宇平野周辺部において大規模な発掘調査が行われているのが、十王免横穴墓群と島田池横穴墓群である。十王免横穴墓群では、37穴が調査されている。その内、意宇型横穴墓は17穴で、全体の5割に近い。また、その築造時期は出雲4～5期に集中する。

島田池横穴墓群は36穴が調査されている。その内、意宇型横穴墓は7穴で、全体の2割弱と以外に少ない。また、その築造時期は出雲5期に限られている。出現時期も安来平野のものより一時期遅い。さらに、子持壺をもつものは2穴、出土品の中に馬具をもつ横穴墓が1穴、直刀が出ているものが3穴である。

これら意宇川下流域に存在する意宇型横穴墓をみた場合、安来平野東縁丘陵で調査された横穴墓と比べると、群全体で意宇型横穴墓の占める割合も少なく、さらに、副葬品についても、装飾大刀はなく、かつ、馬具も僅かである。副葬品としては貧弱であり、このことは被葬者の階層に関わるものと考えられる。

まとめ

松江市域における横穴墓の様相について、意宇型横穴墓を中心として述べてきた。最後に、横穴墓と石棺式石室との関係を安来平野も含めて出雲東部の範囲で検討する。

6世紀中頃に、出雲東部では、横穴墓は各地で築造されていた。その天井形態は丸天井系で、羨道の前方には細長い墓道が付いていた。しかし、意宇川下流域において石棺式石室が首長墓に採用され、定型化した6世紀後半には、出雲東部で横穴墓の玄室が家形四注式やテント形に変化するものも現れ、墓道の幅が横に広がり、前庭部に変化してきた。その動きが顕著で、かつ、多数確認されているのが、安

来平野の東側丘陵である。調査された36穴中、25穴が意宇型横穴墓で、7割弱である。

安来路建設に伴う発掘調査において、安来市宮内町・佐久保町で宮内横穴墓群や臼コクリ横穴墓群等、意宇型横穴墓などの横穴墓が多く調査された。この調査の結果、意宇型横穴墓は出雲4期の段階で既に多くが築造され、その被葬者はある一定の広さをもつ地域の有力者で、臼コクリ横穴墓群に集められたと推定されている²¹⁾。この横穴墓群では、荒島石の石棺が6基あり、馬具や環頭大刀、円頭大刀等の装飾大刀をもつ横穴墓も混じる。なお、この安来平野西側では荒島町の塩津神社古墳や飯梨町の飯梨岩舟古墳など数基の石棺式石室が存在しているが、安来平野東側では発見されておらず、この横穴墓被葬者を統括する勢力についても今のところ不明である。但し、このように意宇型横穴墓を多く採用しており、意宇川下流域の石棺式石室を築造している勢力の傘下に入っていたことは確かなことであろう。

では、松江市域の意宇川下流域はどうであろうか。石棺式石室築造の中枢部にあたるが、安来平野の東側丘陵と比べると、出雲4期の意宇型横穴墓の割合は高くない。穴数の多い狐谷横穴墓群や島田池横穴墓群では、出雲5期の横穴墓は存在するものの、この時期のものは未確認である。よって、横穴墓築造において、石棺式石室の影響は絶対的なものではなかったと考えられる。但し、安来平野の東側丘陵の横穴墓群や宍道湖周辺部の西浜佐陀町北小原1号墓などのように局地的に採用されており、被葬者と意宇川下流域の首長との政治的関係を考慮する必要がある。

一方、岩盤に穿たれた横穴墓をみると、その多くは意宇型横穴墓である。意宇川下流域では松江市大草町安部谷横穴墓群、玉湯町岩屋寺横穴墓群、安来市荒島町塩田横穴墓群²²⁾などが挙げられる。これらの玄室は家形四注式に加工され、玄門には閉塞石が嵌め込まれるように、削り込みが設けられ、石棺式石室と同形態となっている。また、穿たれている岩盤が、安部谷横穴墓群は角礫凝灰岩で、岩屋寺横穴墓群は凝灰質砂岩（来待石）で、塩田横穴墓群は浮石質凝灰岩（荒島石）であり、石棺式石室と石棺の石材産地に、各横穴墓が存在することになる。このことからすると、3地区の横穴墓被葬者は、出雲東部での石棺や石棺式石室造営に関与した工人集団と強い関わりを持っている人物と推定される。

なお、松江市域に所在する横穴墓については、今後解明していかねばならない課題も残されている。例えば、

- ① 他の出雲各地域での横穴墓も墳丘をもち、墓道→前庭に変化しているが、石室の影響や祭祀儀礼の共通性がどの程度窺えるかを確認する必要がある。
- ② 同じ意宇型横穴墓であっても、墓室への入り方は、安来平野東部丘陵と意宇中枢部をもつ松江市域とでは異なるなど、その背景としての横穴墓造営の政治的側面を追求していく必要がある。
- ③ 意宇型横穴墓の終焉とその時期については、出現期の様相に比べ不明瞭であり、石棺式石室の築造停止や横穴の単葬墓化との関係などと併せ、確認していく必要がある。

などである。今後とも松江市域に所在する横穴墓の実態解明に向けては、様々な調査の進展に併せ、検討・考察を進めていく必要がある。

〔謝辞〕 本稿を執筆するにあたり、岡崎雄二郎氏、岩橋康子氏には松江市域に所在する横穴墓について確認をいただきました。記して感謝申し上げます。

注

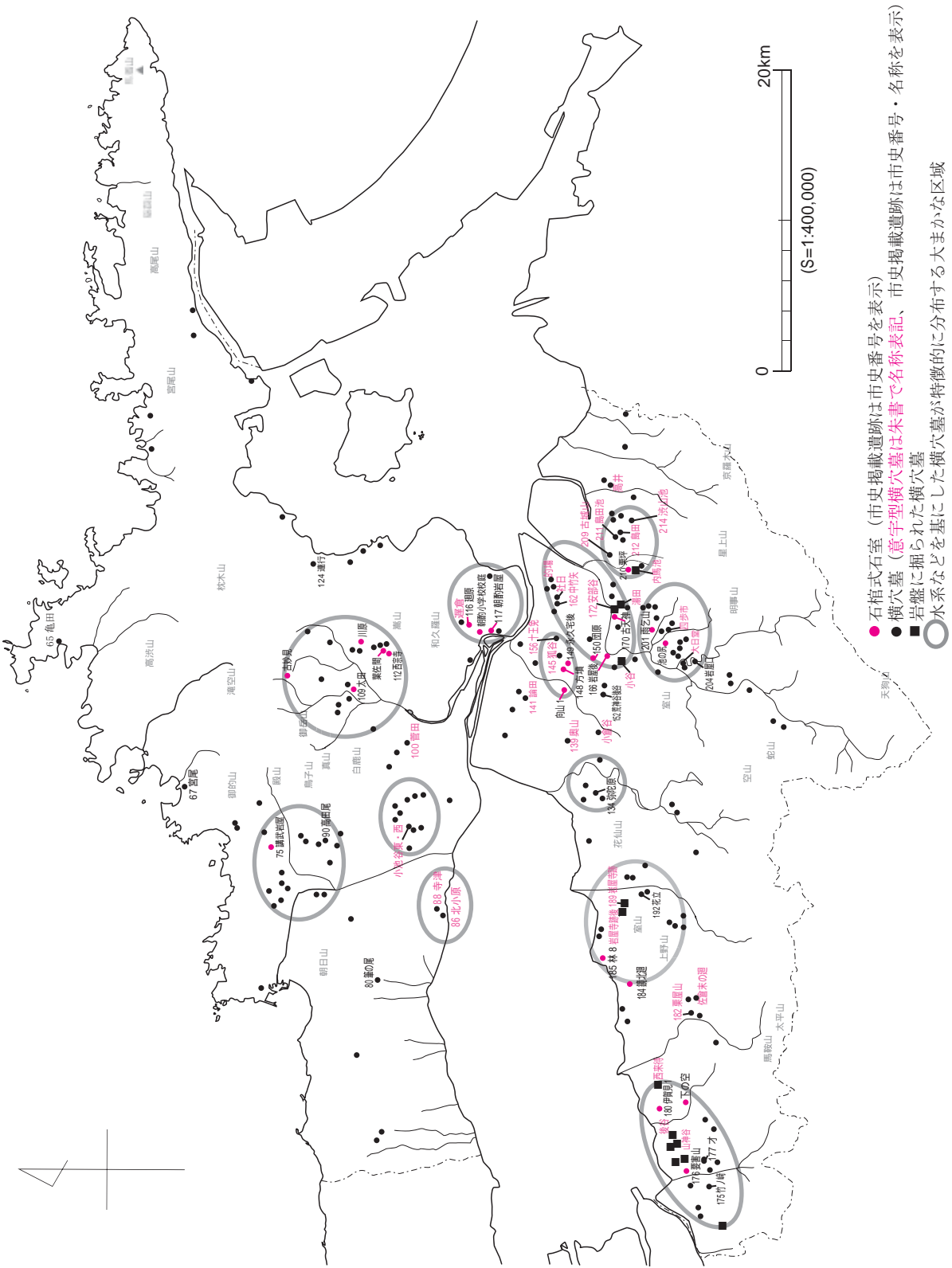
- (1) 佐田茂「九州横穴の形成と時期」『考古学雑誌』61-1 日本考古学会 1982
- (2) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987、導入期の横穴式石室としては、岡田山1号墳、御崎山古墳、林43号墳などが挙げられる。これらの石室も北部九州や肥後(熊本県)の石室の影響を受けたものである。
- (3) 大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』11 1994
- (4) 西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓—出雲地方を中心に—」『おおいた考古』4 大分県考古学会 1991
- (5) 松江市史編集委員会『松江市史』史料編2「考古資料」松江市 2012
- (6) (3)に同じ
- (7) 山本清「横穴の形式と時期について」『島根大学人文科学論集』8 1962
- (8) 門脇俊彦「西山陰における横穴墓の受容(上)」『島根考古学会誌』2 1985
花田勝広「畿内横穴墓の特質」『古文化談叢』22 九州文化研究会 1990
- (9) (1)に同じ
『中竹矢遺跡 国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』島根県教育委員会 1983
- (10) 『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会 1984
- (11) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987
西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓—出雲地方を中心に—」『おおいた考古』4 1991
- (12) 角田徳幸「出雲の後期古墳文化と九州」『風土記の考古学』3 同成社 1995
池上悟「山陰地方における横穴墓の受容と展開」『立正考古』37 1998
池上悟『日本横穴墓の形成と展開』雄山閣2004
- (13) 『岩屋口北遺跡・白コクリ遺跡』島根県教育委員会 1997
『島田池遺跡・鶴貫遺跡』島根県教育委員会 1997
- (14) 西尾克己・稲田信・原田敏照・守岡正司『宍道町歴史史料集 古墳時代編1 宍道町の横穴墓・横穴式石室集成』宍道町教育委員会 1993
- (15) 『出雲の横穴墓』山陰横穴墓検討会 1997
- (16) (5)に同じ
- (17) (5)に同じ
- (18) (14)に同じ
- (19) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987
- (20) 『岩屋口北遺跡・白コクリ遺跡』島根県教育委員会 1997
- (21) (20)に同じ
- (22) 出雲考古学研究会「遺跡と地域と考古学」『古代の出雲を考える』9 2007

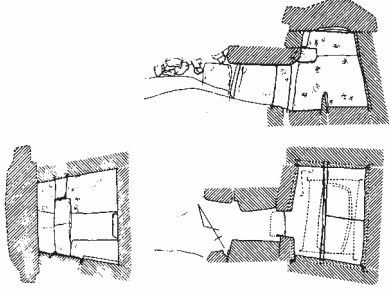
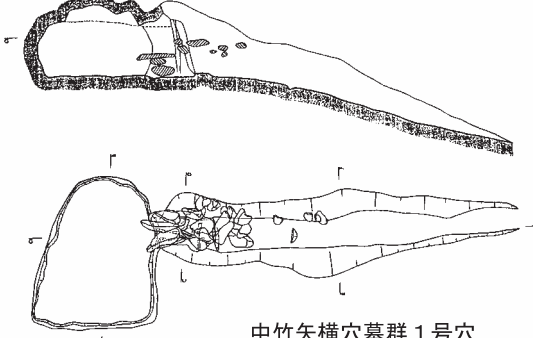
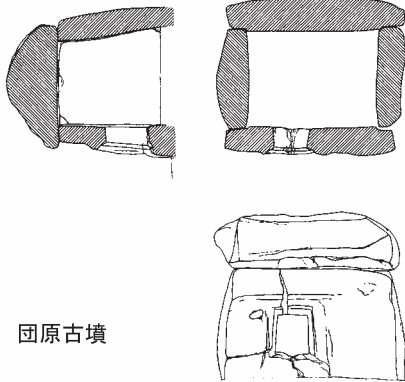
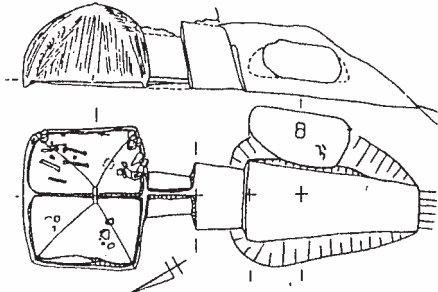
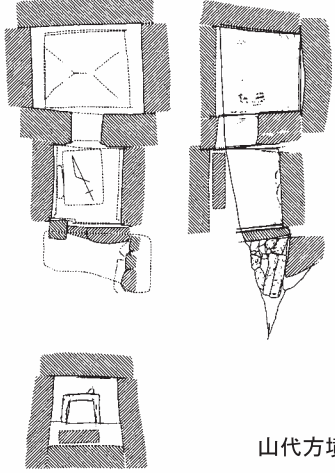
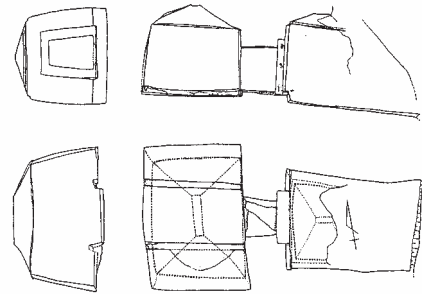
番号	島根遺跡番号	遺跡名称	所在地	意字型	天井形態	子持壺	出雲編年							掲載文献(執筆者、発行機関等は松江市史考古付録関係文庫・埋蔵文化財調査報告書一覽を参照)			
							3期	4期	5期	6期	7期	8期					
128	H 166	山の神横穴墓	宍道町宍道	1号 2号	ドーム形												音吉寺横穴群発掘調査報告書1986、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
129	H 167	岩穴口古墳	宍道町宍道														宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
130	H 177	横町横穴墓群	宍道町宍道	I-1号 II-1号	ドーム形												宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
131	H 13	OM公園横穴墓	宍道町白石														宍道町の横穴墓・横穴式石室集成
132	H 40	才横穴墓群	宍道町白石	I-1号 I-2号 I-4号 I-6号 I-9号 II-1号 II-2号 III-1号 III-2号 III-3号 III-4号 III-5号 IV-1号	ドーム形												地域と古墳と磨崖仏1980、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編、松江市史考古
133	H 41	女ヶ崎横穴墓	宍道町白石														宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
134	H 65	矢頭横穴墓	宍道町白石														清水谷遺跡・矢頭遺跡発掘調査報告書1985、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成
135	H 215	下倉横穴墓群	宍道町白石	1号 2号 4号 5号	ドーム形												宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
136	H 5	西来待横穴墓群	宍道町西来待	1号 2号	ドーム形												宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
137	H 6	弘長寺横穴墓群	宍道町東来待														島根県史1925、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
138	H 53	松石横穴墓	宍道町東来待														松石古墳群1978、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成1993、宍道町史料編1999、松江市史考古資料編2012
139	H 3	栗屋山横穴墓群	宍道町上来待	1号 2号 3号 5号	ドーム形												島根大学論集8 1985、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編、松江市史考古
140	H 4	佐倉横穴墓群	宍道町上来待	1号 3号 4号	ドーム形												宍道町誌1963、宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
141	H 28	菅原横穴墓群	宍道町上来待	1号 2号 3号	ドーム形												宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
142	H 29	佐倉末の廻横穴墓群	宍道町上来待	1号 2号	ドーム形												宍道町の横穴墓・横穴式石室集成、宍道町史料編
143	H 107	角田横穴墓群	宍道町上来待														宍道町の横穴墓・横穴式石室集成
144	G 15	林横穴墓	玉湯町林村														玉湯町史1961
145	G 48	宮ノ奥横穴墓群	玉湯町林村														「室棟平入」
146	G 49	穴薬師横穴墓群	玉湯町林村														玉湯町史
147	G 68	大横谷横穴墓群	玉湯町林村														「室棟平入」
148	G 69	寺ノ空横穴墓群	玉湯町林村														玉湯町史
149	G 68	小金山横穴墓群	玉湯町林村														島根県史1925
150	G 5	岩屋寺跡横穴墓群	玉湯町玉造	1号 2号	ドーム形												島根県史1925、島根県史蹟名称天然記念物3 1927、島根県文化財3 1963、古代の出雲を考える9 2007、松江市史考古
151	G 7	徳連場横穴墓	玉湯町玉造														玉湯町史1961、島根県埋蔵文化財調査報告書15 1989
152	G 18	新宮横穴墓群	玉湯町玉造														
153	G 24	岩屋寺跡横穴墓群	玉湯町玉造														古代の出雲を考える8 1987、古代の出雲を考える9 2007
154	G 34	大門小路横穴墓	玉湯町玉造														島根県埋蔵文化財調査報告書15 1989
155	G 77	花立横穴墓群	玉湯町玉造	1号 2号 4号	ドーム形												島根県埋蔵文化財調査報告書15 1989、松江市史考古
156	G 96	青木原横穴墓群	玉湯町玉造														
157	F 20	山崎横穴墓群	八雲町古吉														
158	F 28	神納横穴墓	八雲町古吉														八雲村の遺跡1978
159	F 30	和田平横穴墓群	八雲町古吉														八雲村の遺跡
160	F 84	落井東横穴墓群	八雲町古吉														八雲村の遺跡
161	F 85	落井西横穴墓群	八雲町古吉														八雲村の遺跡
162	F 3	四歩市横穴墓群	島根県東来待	1号 2号 3号 4号 8号 13号 14号 15号	ドーム形												島根県史1925、八雲村の遺跡1978

番号	島根遺跡番号	遺跡名称	所在地	意字型	天井形態	子持壺	出雲編年							掲載文献(執筆者、発行機関等は松江市史考古付録関係文庫・埋蔵文化財調査報告書一覽を参照)			
							3期	4期	5期	6期	7期	8期					
163	F 4	高丸横穴墓群	八雲町東来待	1号 2号 3号 4号	ドーム形												八雲村の遺跡
164	F 6	安田横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
165	F 39	外輪谷横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡、安田古墳群1号墳・外輪谷横穴墓群12号穴1999
166	F 43	原ノ前横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡、八雲村誌1998
167	F 44	細田横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
168	F 82	善三郎谷横穴墓群	八雲町東来待														
169	F 96	増福寺横穴墓群	八雲町東来待														
170	F 7	岩屋口横穴墓群	八雲町東来待														島根県史1925、八雲村の遺跡1978、東京国立博物館所蔵須志器集成III 1989、岩屋口横穴墓群2006、松江市史考古
171	F 8	青木横穴墓群	八雲町東来待														島根県史1925、八雲村の遺跡
172	F 37	北折原横穴墓群	八雲町東来待														
173	F 45	禰定寺横穴墓群	八雲町東来待	2号 4号	ドーム形												八雲村の遺跡1978
174	F 47	折原横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
175	F 49	大日堂横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
176	F 50	岩坂神社横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
177	F 10	宮内横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
178	F 17	松廻横穴墓群	八雲町東来待	1号 2号 3号 4号	ドーム形												八雲村の遺跡
179	F 18	高野横穴墓群	八雲町東来待	2号	ドーム形												八雲村の遺跡、高野2号横穴発掘調査報告書1980、八雲村誌1998
180	F 64	田寄横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
181	F 67	恩部山横穴墓群	八雲町東来待														八雲村の遺跡
182	E 44	湯谷横穴墓群	東出雲町東来待	1号 2号 3号	ドーム形												島根県埋蔵文化財調査報告書1974、東出雲町の遺跡1988
183	E 94	湯田横穴墓群	東出雲町東来待	1号 2号 3号	ドーム形												東出雲町の遺跡、古代の出雲を考える8 1989、古代の出雲を考える9 2007
184	E 95	天王横穴墓	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
185	E 41	内馬池横穴墓群	東出雲町東来待	1号 2号	ドーム形												東出雲町の遺跡、東出雲町誌1978
186	E 34	姫津谷横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
187	E 30	古城山横穴墓群	東出雲町東来待	1号 3号穴 4号穴	ドーム形												島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969、東出雲町の遺跡、古城山遺跡(1・11区調査区) 2006、古城山遺跡2008
188	E 61	後谷池東横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡、東出雲町誌
189	E 103	後谷池西横穴墓群	東出雲町東来待														島根県史1925、東出雲町の遺跡
190	E 143	島田横穴墓群	東出雲町東来待	1号 3号	ドーム形												岸尾遺跡・島田遺跡1997、塩津丘陵遺跡群(塩津山遺跡・柳遺跡・柳1遺跡)・小久白墳墓群2001
191	E 57	戸田屋敷横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
192	E 11	高井横穴墓群	東出雲町東来待	1号 2号 3号 4号	ドーム形												島根県史1925、島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969、東出雲町の遺跡
193	E 13	中津横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
194	E 14	ヤジ山横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
195	E 15	四ツ廻横穴墓	東出雲町東来待														島根県史1925、東出雲町の遺跡
196	E 29	屋台垣横穴墓群	東出雲町東来待														島根県埋蔵文化財調査報告書1、東出雲町の遺跡
197	E 59	島田池横穴墓群	1K1号 1K3号														東出雲町の遺跡、島田池遺跡・鶴島遺跡1997
198	E 62	浜山池横穴墓群	東出雲町東来待	1号 2号 3号 4号 10号 11号	ドーム形												浜山池古墳群1998、松江市史考古
199	E 108	長廻横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡1988
200	E 113	赤坂池横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
201	E 116	平賀横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡
202	E 137	林廻り横穴墓	東出雲町東来待														中山遺跡・巻林遺跡1994、四ツ廻遺跡・林廻り遺跡・交馬遺跡1996
203	E 77	糠子谷横穴墓群	東出雲町東来待														東出雲町の遺跡、東出雲町誌
204	E 125	毛無横穴墓	東出雲町東来待														御崎谷・土元・清水遺跡ほか1993
205	E 127	林横穴墓	東出雲町東来待														御崎谷・土元・清水遺跡ほか

註) 原則として、2012年3月までに確認されている松江市内に所在する横穴墓を一覧とした。横穴墓の名称、番号配列順等は『松江市史』史料編2「考古資料」2012(『松江市史考古』)と略すの凡例に倣った。横穴墓の天井形態、時期については出雲横穴墓研究会『出雲の横穴墓』1997を参考とした。

松江市域の石棺式石室、横穴墓分布図



	石棺式石室	横 穴 墓
1	 <p data-bbox="683 689 798 716">古天神古墳</p>	 <p data-bbox="1109 689 1340 716">中竹矢横穴墓群 1号穴</p>
2	 <p data-bbox="343 1108 438 1131">団原古墳</p>	 <p data-bbox="1125 1131 1364 1153">十王面横穴墓群10号穴</p>
3	 <p data-bbox="630 1691 726 1713">山代方墳</p>	 <p data-bbox="1061 1702 1364 1724">安部谷横穴墓群 I 支群 1号穴</p>



石棺式石室と意宇型横穴墓の変遷図 (意宇郡中央部)